

教材名「子どもたちの権利条約」

：主として集団や社会との関わりに関すること—公正、公平、社会正義」（光村図書5年 p.170）

1. 本教材について

☆「多面的・多角的に」考える学習活動

- \* 「権利」ってなんだろう？と考えることができる。
- \* 「権利」は、私たちの生活とかかわりがあることを考えることができる。
- \* 「子どもの権利条約」は、世界中のすべての子どもたちが守られる権利であり、守る責任は大人にあるということも確認することができる。
- \* 「子どもの権利条約」4つの柱に分かれていることを知り、様々な状況の下で生活している世界の子どもたちは、どんな権利が侵害されているか考えることができる。

☆考える・議論できる学習活動

- \* 「子どもの権利条約」と私たちの生活と、どのようにかかわりがあるか、考え議論することができる。
- \* みんなが楽しく、安心してすごすことができる学級をつくるために、どんな権利を認め合うことができるか考え、学級の「こどもの権利条約」をみんなで議論することができる。
- \* 「子どもの権利条約」が本当に自分たちのためになっているかを議論したり、他の条約も調べたりすることができる。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと 本時は、「子どもの権利条約」を知ることを中心に考えた。 次時は、生活の中で権利について見直す授業を考えていきたい。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	○「子どもの権利条約」について紹介する。 ・「子どもの権利条約カードブック」のカードをグループに配り読む。(40枚の内21枚)	・「子どもの権利条約」には、世界中のすべての子どもが守られるべき権利について書かれていることを知らせる。 ・日本も「子どもの権利条約」に批准していることを知らせる。
展開	○内容が似ているカードをさがし、カードのグループをつくる。 ○それぞれのグループに見出しをつける。  ○なぜそのグループになったのかを発表する。	・グループで相談して、模造紙にはり、見出しをつくる。 一人ひとりの意見を大切に、みんなで話し合って考える。  ・まとまらないときは、違ったことについても意見交換する。
まとめ	○「子どもの権利条約」は、2つの基本理念と4つ権利に分かれていることを知らせ、感想を出し合う。	・自分のもつ権利を認識させる。同時に、自分の権利と同じように他者の権利を尊重することにもつなげていく。 ➡世界人権宣言にもふれる。

4. 参考資料 ・子どもの権利条約カードブック（ユニセフの資料・学習教材）入手可能

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/kenri/syo1-8.htm>

・知っていますか？「子どもの権利条約」 J T U 日本教職員組合